

第16回 3D教育研究会

開催レポート ～ダイジェスト～



2013年2月23日(土)、東京都文京区本郷にある東洋学園大学の会議室にて、第16回3D教育研究会が開催された。14校の学校および学校関係者が多数参加。

第1部は「幕末史を見直す会」代表の鈴木荘一先生にご講演を頂きました。その後は、意見交換会としてアンケート集計報告や各学校の3D教育プログラムの活用状況の発表の場が持たれ、参加校の各先生方による発言や意見も飛び交い、充実した時間となりました。

平成25年3月吉日
株式会社 KA 教育
代表取締役 菊地 淳

第 1 部「講演会」

会長挨拶



司会：3D 教育研究会 副会長 石井 公一先生（立正中学校・高等学校 生活指導部長）
本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日第 1 部、2 部にて司会を務めさせていただきます立正高校の石井と申します。宜しくお願いいたします。

まずはじめに 3D 教育研究会の会長を務めます片倉敦先生よりご挨拶をいただきます。



3D 教育研究会 会長挨拶 片倉 敦先生（順天中学校・高等学校 副校長）

皆様こんにちは。2 月は入試業務が非常に多忙な折りにお集りいただきましてありがとうございます。

今回は鈴木荘一先生をお招きしまして、『会津藩と道德教育』というテーマですが、会津藩から出た方々には現在の教育の中に非常に根強く影響を及ぼしているということをお話されると聞いております。皆様もこの話をお聞きになり学校に持ち帰られて、ひとつの方向性というものを示す良い機会になるかと思っています。

講演『会津藩と道德教育。そしていじめ問題』

講演：鈴木 荘一先生



司会：3D 教育研究会 副会長 樋口 元先生（京華中学校・高等学校 企画広報部長）
私より鈴木先生のご紹介をしたいと思います。

先生は昭和 45 年に東京大学の経済学部をご卒業され、日本興業銀行に入行された折には審査や融資、産業調査等の分野においてご活躍なされたということです。企業審査や分析を実際に経済の部分でなさっていたということです。それとは別に昔から歴史が好きでほんとに勉強なされたということです。その 2 つの部分が融合されて現在のようになれたのだと思います。政治や経済、それから歴史を結びつけ分析をし、色々な著書を執筆なさっているということです。

ただいまご紹介いただきました鈴木でございます。

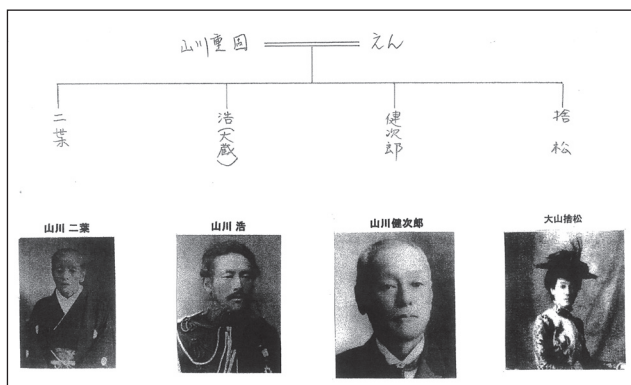
『会津藩と道德教育。そしていじめ問題』ということについてお話ししたいと思います。

ご自身で収集された資料をもとに約 1 時間の講演が行われました。



1.近代教育における会津藩の位置

私は昭和29年～35年に御茶ノ水女子大附属小学校に通っており、卒業と同時に2年間で会津若松の学校に通いました。その頃から歴史に関心が深まって参りました。その後は東京に戻り、区立中学で2年を過ごし東京大学を出たという感じです。御茶ノ水附属小学校という所は例えば、音楽は西洋音楽、考え方は西洋的な個人主義と近代化路線、そして男女平等という所でした。会津の中学は伝統重視であり男女別学という奉獻的な感じでした。東京大学という所は良くも悪くもエリート臭が強く権威的であり女子学生も少ないといった感じですが、思想的には西洋的、個人主義、近代化路線だと思います。そういう風に色々な学校を経由しながら、どうも釈然としないような気持ちを持っていました。ある日ふと思ったことがあります。要するにこれらを作ったのが“山川兄弟”だということに気がつきました。



私は2年間の会津での生活を振り返りまして「山川学校の生徒だったのではないかな」と思っています。

2.いじめ問題の本質

『競争原理』と『道徳教育』

現在のいじめ問題というのは約50年前に発生したのです。当時、教育モデルとなる学校で何故いじめは発生したのかという最大の原因は、文部省が教育現場に首を突っ込み、介入したということです。生徒たちの心を伝える道徳教育と高度成長を支える為の学力向上という二本柱にしました。しかし、現実の社会におきましては、競争原理という部分では大いに発展し高度経済成長を成し遂げ、世界第2位の経済大国となった訳ですが、一方で完全に崩壊してしまい、学校においてはいじめが蔓延しているという結果になってしまいました。『競争原理』というものが肥大化した理由は新聞ならびにマスコミが受験戦争を煽ったということです。また、いじめ問題についても過剰に騒ぎ立てるといった事も非常に良くないことだと考えています。

3.子供をいじめから守れるのは親だけ

本来であればしつけは親が家庭教育で行わなければならないことを放棄し、学校へ任せ責任放棄しているのです。例えば一人の担任が30人の生徒を見る訳ですから、学校の先生がいじめ問題を処理する事自体、基本的には無理があると思います。

4.いじめは教師・学校には分からない

いじめというものの本質は、子供たちが学校や先生に分からないように行う行為なのです。いじめられた親御さんが学校に相談する行為も善し悪しであり、そこから逆に悪化する場合もあるので難しい問題です。

5.いじめの無い学校作りの方法

私はいじめのない学校を首都圏に4~5校作りたいと考えています。そこにはいじめに苦しむ生徒に転校してきて欲しいと考えてます。

方法論として一気にいじめを無くすということは極めて困難だと思います。いじめを減らし無くすまで計6年くらいかかるのではないかと思います。3年かけていじめを減らし、3年かけていじめを無くしていくという方法で考えています。

学校でいじめ問題が起こると、文部省より色々な指示や干渉を受けます。それは非常に悪循環ですし、いじめ問題が生じなければ文部省の介入も少ない訳です。従って自由度の高い学校運営ができ、いじめはまた減っていくと考えます。

6.少年自治としての会津藩「什の誓い」

少年の自治の崩壊とそれに対する抵抗がいじめなのだと思います。いじめというものは江戸時代には無く、戦後に発生したものです。

什の掟ーじゅうのおきて（ならぬことはならぬものです）

同じ町に住む六歳~九歳の藩士の子供たちは、十人前後で集まりを作っていました。この集まりのことを会津藩では「什（じゅう）」と呼び、そのうちの年長者が一人什長（座長）となりました。

一、年長者（としうえのひと）の言ふことに背いてはなりませぬ

一、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ

一、嘘言（うそ）を言ふことはなりませぬ

一、卑怯な振舞をしてはなりませぬ

一、弱い者をいぢめてはなりませぬ

一、戸外で物を食べてはなりませぬ

一、戸外で婦人（おんな）と言葉を交へてはなりませぬ

ならぬことはならぬものです

少年たちは自ら仲間内でルールを作り、ルールを守るということを行ったとのことでした。



7.「女性の自治」と山川二葉

『女性は男性を立てて、かしづかなければなりません』ということを御茶ノ水女子大学的女子学生さんたちに戒めています。

このことは、男性にかしづくということを言ってる訳では無く、礼儀正しくしていられぬ摩擦を起こさないということが、女性としての確立に最短距離なのであるということを教えているのです。

8.山川健次郎と「大学の自治」

東京帝国大学の物理学教授になり、その後は同大学の総長になられた方です。この方が「大学の自治」というものを確立しました。

■東大総長山川健次郎と戸水事件／京都大学における「大学の自治」＝柳澤事件

9.「女性の自治」「大学の自治」は守られたが「少年自治」は崩壊した

「女性の自治」を守ったことが、現在の女性の社会進出に大いに役立っていて、「大学の自治」を守ったことが、現在の大学の知的発展に繋がったと考えています。しかし、「少年自治」は崩壊したまま現在に至るまで復活しておりません。このことが現在の「いじめ」という現象となって表れていると思います。従って「いじめ」を無くすということは、健全なる「少年自治」を再確立させることであろうと私は考えています。

10.教育の結果は50年後に顕れる

私が小学校を卒業する際に先生が言った言葉なのですが、『教育の成果は50年後に顕れる』。自分は皆さんを精一杯教育したのだけれども、その成果を自分の目で見ることが出来ない…とおっしゃいました。今がまさにその50年後なのです。

かつての教育モデル校は競争原理ヘシフトしていき、道徳教育というものが全くの空白になってしまいました。そういったことを推進するようなモデル校というのが、今はもう無くなってしまっております。そういった状況において、何とかそれらを再構築していければと考えております。

司会：

ありがとうございました。

会津藩のお話からいじめ問題に至るまで、大きな視野でご講演をいただきました。

感想：

「少年自治」の復活は可能か？という部分で、いわゆる受験戦争や高度成長といった中で、地域社会との結びつきが薄れていくような時代があって、そういった子供たちが中学や高校といった社会に来た時に、暗黙のルールや縦社会の存在を知らないままに部活動などでの上下の厳しさというものを教わって、なかなかうまく打ち解けないような状況があるようにも思っています。「子供の中の縦社会」といったようなものが、どのようにすれば復活できるだろうかと思わされました。

鵜田 克彦先生（駒場学園高等学校）

鈴木荘一先生

『幕末史を見直す会』代表

主な著書

・勝ち組が消した開国の真実
・日露戦争と日本人
・日本征服を狙ったアメリカの「オレンジ計画」と大正天皇
現在は、太平洋戦争を扱った4作目の執筆にあたっている。

記念撮影

参加者全員での記念撮影



出来る・大丈夫・大成功

3D教育研究会

2013. 2.23 第16回 3D教育研究会 in 明治大学 紫紺館

株式会社 K A 教育

〒173-0012

東京都板橋区大和町 12-12

03 - 6784 - 7675